

教育関連施設のアスベスト 968 機関で飛散のおそれ



文部科学省は平成 17 年 7 月に国公立学校、公立の社会教育施設、社会体育施設、文化施設、所管の独立行政法人、認可法人、特殊法人などに対し、8 年度以前に竣工した建築物に使用される、吹付けアスベスト、吹付けロックウール、吹付けひる石などを調査し報告するよう求めていました。

18 年 3 月時点で吹付けアスベスト使用実態調査が未完了だった機関は全調査機関 15 万 1,925 の内 299 機関ありましたが、実態調査が 18 年 6 月末までに完了したことから、これらの施設に関する報告をまとめ、18 年 8 月 23 日付けで公表しました。

吹付けアスベストなどを使用した部屋があると回答したのは、この中の 89 機関で、うち対策実施済みの部屋がある機関は 39 機関。未対策だが飛散の恐れのない部屋があるとしたのは 55 機関。未対策で飛散の恐れがある部屋があるとした機関は 10 機関でした。

18 年 3 月時点で調査済みだった施設についての発表内容とあわせると、吹き付けアスベストなどを使用した部屋があると回答したのは累計 8,603 機関、うち未対策で飛散の恐れがある部屋がある機関は、968 機関となりました。

当社では、大気・建材等のアスベスト分析を行っております。お気軽にお問い合わせください。

資料 2006 年 8 月 25 日付 EIC ネット

環境分析箇所 重田郁美